令和元年度第１回移動教育委員会　懇談会発言要旨
（袋井市教育支援センター）

開 催 日 時：令和元年６月４日（火）１４：００～１５：４０
場　　所：袋井南コミュニティセンター　２階大会議室
懇談会テーマ：不登校児童生徒への対応について
～教育支援センターの取組から～
参　加　者：袋井市教育支援センター職員、袋井市教育委員会事務局職員、
静岡県教育委員ほか

１　県内の不登校者数、適応指導教室
静岡県教育委員会事務局
・ 小中学校の不登校は、平成 24 年度以降、増加傾向。平成 29 年度現在、小学校で 1,435 人、中学校で 3,612 人。学年が上がるのに従い、不登校の児童生徒数も増加している。
・ 県内に 43 か所の適応指導教室があり、約 700 人の児童生徒が通っている。

２　袋井市教育支援センターの概要
袋井市教育委員会事務局
・ 教育支援センター「ひまわり」には 90 日以上の欠席者が通級。平成 30 年度は 11 名でスタートし、最終的には 22 名の登録があった。
・ 居場所を提供し、「ひまわり」の活動を通して意欲を向上させ、子どもたちの学校への復帰を目指している。ほとんどの児童生徒は、日数は少ないながらも学校に登校できるようになり、平成 31 年度４月からは７名が完全復帰している。
・ 「ひまわり」では午前中に学習、午後は卓球などで身体を動かしている。クラブ活動も毎週金曜日に実施。
・ 登校しぶりや不登校に対する相談、支援を行っている。通級できない児童生徒に対しても相談支援を行っている。
・ 子ども支援室とも連携し、必要に応じてアセスメントを行っている。特性を持つ子どもについては、保護者の了解のもと検査を行い、本人のやりにくさ、困り感の原因を確認し、場合によっては医療につなげることもある。
・ 支援員の専門性の向上、個に応じた学習支援、社会的自立を目指した支援が今後の課題となっている。

３　協議

(1) 不登校の本質的な原因

袋井市教育支援センター

・ 家庭における子どもへの関わりが重要だが、母親が疲弊している。子ども同士で遊ばなくなっているため、付き合い方の分からない子どもが増加している。テレビゲームも悪影響を与えている。

県教育委員

・ 画一的な指導ではなく、一人一人の個性が伸ばされるよう学校教育を改革すれば、子育てにも影響を与え、結果的に不登校もなくなっていくのではないか。

県教育委員

・ 田舎の子どもほど、子どもたちで遊ばなくなっている。遠方から通学していることもあり、学校も子どもを早く帰宅させてしまう。その結果、塾へ行くか、テレビゲームをするかのいずれかになっている。

県教育委員会教育長

・ 少子化の結果、切磋琢磨する同世代の仲間が少なくなる中で、静岡の教育のあり方を幼稚園、こども園から大学まで含めてオール静岡で考える必要がある。
・ 不登校の児童生徒が県内で約 5,000 人いるが、成人後、社会で活躍できる人材になってほしい。不登校への対策を整理し、静岡方式にまとめていきたい。

(2) 支援上の課題

袋井市教育支援センター

・ 現在の課題は、担任、養護教諭等と情報交換する時間が確保できないこと。年々、「ひまわり」に子どもの様子を見に来てくれるようになってきたが、学校間の差が大きい。

県教育委員

・ 教員の意識が変わってきた点は評価できるが、不登校増加のスピードには十分に対応できていない。教員の多忙化もあるが、業務の棚卸をして、本来、教員が対応すべきことに集中して対応すべきではないか。

県教育委員会教育長

・ 国際的な比較をしても、日本の教員は多忙で、子どもの成長のために必要な余力がなくなっている。

(3) 不登校未然予防のための留意点

県教育委員会事務局

・ 子どもたちに「つながり」を伝えることが安心感につながる。
・ 新たな不登校を出さないための留意点はあるか。

袋井市教育支援センター

・ 子どもは勉強に対する意識が高いが、ＬＤなどにより学習面でつまずきやすく、学力不振が原因で不登校になりやすい。また、中学校で、成績順が明確になることを契機に不登校になる生徒もいる。学力以外の面で認めてくれる人がいる温かい環境があれば、救われる。

県教育委員

・ 教員が子どもたちとコミュニケーションを取り、学力以外にも良い点を認めることが大切。

袋井市教育支援センター

・ 現在の不登校の子どもたちの状況をもっとよく知ってほしい。
・ 教員に寛容の精神があると良い。

袋井市教育支援センター

・ 現在は、学力の二極化が生じている。学力に問題を抱えている子どもたちに合理的配慮が十分になされないと、不登校につながる。不登校になる前の支援もしているが、十分対応できていないところもある。対応する余裕が教員や学校に必要。

県教育委員

・ 「ひまわり」の活動を充実させる一方で、教員の余裕を作らないと行き詰まってしまうだろう。

(4) 他の市町等との連携

袋井市教育支援センター

・ 県の会議などで他市町とつながりはあり、情報が入るが、十分な時間を確保した上での情報交換は難しい。

県教育委員

・ スポーツ界でも、コミュニティ、心理的安全、自己肯定感がキーワードになっていて、様々なアクティビティを行っている。地域密着型スポーツクラブなど、教育現場以外との連携もできるのではないか。

(5) その他

袋井市教育支援センター

・ 子育て中の親が頼ることができる人がいないことが課題。
・ 愛着形成ができていないと、成長段階のある時期につまづいてしまうことがある。親のあるべき姿がどのようなものかわかりにくくなっている。
・ 経済状況や多様化した家族の在り方も影響を与えている。

県教育委員会教育長

・本日は充実した意見交換ができた。県教育委員会として、できるところから取組を始めたい。静岡として必要なことを整理して、静岡方式で取り組んでいきたい。